

小学校 第4学年 体育科学習指導案

日 時 平成26年 月 日 () 第 校時

〇〇 : 〇〇 ~ 〇〇 : 〇〇

対 象 第4学年〇組 〇〇名

学校名 〇〇〇〇小学校

授業者 職・氏名

会 場 体育館

1 単元名 器械運動「マット運動」

2 単元の指導目標

- ・基本的な回転技や倒立技に取り組み、それぞれについて自分に合った技をできるようにする。
- ・運動に進んで取り組み、きまりを守って運動したり、場や器械・器具の安全に気を付けたりすることができるようにする。
- ・自分の能力に合った課題をもち、技ができるようにするための練習方法や場を選ぶことができるようにする。

3 評価規準

	ア 運動への関心・意欲・態度	イ 運動についての思考・判断	ウ 運動の技能
単元の評価規準	①技ができるよう、運動に進んで取り組もうとしている。 ②きまりを守り、友達と仲よく運動しようとしている。 ③場や器械・器具の安全を確かめようとしている。	①技のポイントを知り、技ができるようにするための運動の仕方を工夫している。 ②自分の能力に合った課題をもち、技ができるようにするための運動の仕方を工夫している。	①自分の力に合った基本的な回転技や倒立技に取り組んでできる。

4 指導観

(1) 単元観

<一般的な特性>

- 技を身に付けたり、新しい技に挑戦したりするときに楽しさや喜びを味わえる運動である。
- 楽しさを味わうために、技術的要因が深く関わってくる運動である。
- 安全に対する主体的な態度を育てる上で、効果的な運動である。
- 自分の力に合った課題をもちやすく、課題解決の方法を工夫して取り組める運動である。

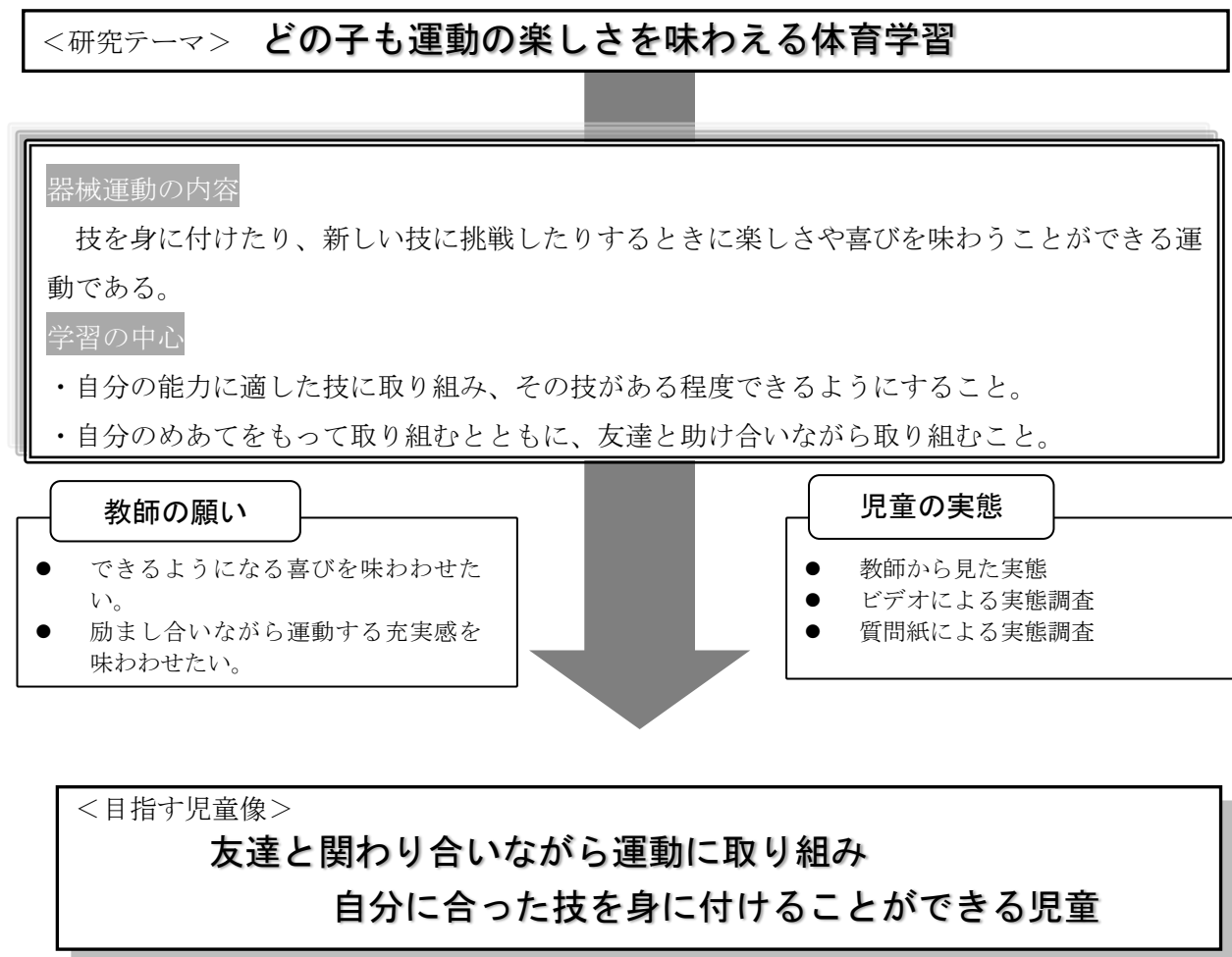
<児童から見た特性>

- できなかった技ができるようになると楽しい。
- 友達と励まし合ったり、教え合ったりすると楽しい。
- 技のポイントを理解し、適切なめあてをもって取り組むことで、技能の高まりを実感しやすい。

(2) 児童観
略

(3) 教材観

器械運動の特性やこれまでの学習・実態調査から、研究テーマに対して以下のように考え、教材づくりを行っていく。



5 年間指導計画における位置付け

<第3学年>

	マット運動	鉄棒運動	跳び箱運動
時期	1学期	1学期～2学期	3学期
時間数	6時間	6時間	6時間

<第4学年>

	マット運動	鉄棒運動	跳び箱運動
時期	1学期	1学期～2学期	3学期
時間数	7時間	7時間	6時間

6 指導計画と評価計画

	ねらい	学習内容・学習活動	学習活動に即した具体的な評価規 準・評価方法（ ）
第1時	・単元の見通し をもつことが できる。	オリエンテーション ○学習の進め方を知る。 1 集合・整列・挨拶	・アー① 技ができる楽しさや喜びに 触れることができるよう、マット運動 に進んで取り組もうとしている。 (観察)
第1時	・前転のポイン トを知る。	2 学習内容の確認 3 準備運動 4 慣れの運動 5 器械器具の準備の仕方や約束の 確認 6 前転のポイントを知る。 7 整理運動 8 本時の振り返り 9 整列・挨拶	・アー③ 友達と協力して、器械・器具 の準備や片付けをしようとしている。 (観察)
第2時	自分の課題に合 った練習に取り 組み、基本的な 回転技ができ る。	1 集合・整列・挨拶 2 学習内容の確認 3 準備運動 4 慣れの運動 5 前転系の技のポイントを確認す る。 6 自分の課題に応じた練習をする。 ・前転 ・前転(連続) ・大きな前転 ・開脚前転 7 ミニ発表タイム 8 整理運動 9 本時の振り返り 10 整列・挨拶	・イー② 基本的な技の練習の仕方を 知るとともに、自分の能力に合った練 習方法や練習の場を選んでいる。(観 察・学習カード)
第3時	後転のポイント を知り、運動に 取り組むことが できる。	1 集合・整列・挨拶 2 学習内容の確認 3 準備運動 4 慣れの運動 5 後転のポイントを知る。 6 工夫した場で練習する。 7 整理運動 8 本時の振り返り 9 整列・挨拶	・アー② 友達と協力して、器械・器 具の使い方や運動の仕方のきまりを 守り、友達と励まし合って運動をしよ うとしている。 (観察) ・アー③ 運動する場や器械・器具の使 い方などの安全を確かめようとして いる。(観察) ・イー① 基本的な技のポイントを知る とともに、自分の力に合った課題を選

			<p>んでいる。</p> <p>(観察・学習カード)</p>
第4時	自分の課題に合った練習に取り組む、基本的な回転技ができる。	<ol style="list-style-type: none"> 1 集合・整列・挨拶 2 学習内容の確認 3 準備運動 3 慣れの運動 4 後転系の技のポイントを確認する。 5 自分の課題に応じた練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・後転 ・後転(連続) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ウー① 自分の能力に合った基本的な回転技を行ってる。(観察)
第4時		<ul style="list-style-type: none"> ・開脚後転 <ol style="list-style-type: none"> 6 整理運動 7 本時の振り返り 8 整列・挨拶 	
第5時	側方倒立回転のポイントを知り、運動に取り組むことができる。	<ol style="list-style-type: none"> 1 集合・整列・挨拶 2 学習内容の確認 3 準備運動 4 慣れの運動 5 側方倒立回転のポイントを知る。 6 工夫した場で練習をする。 7 整理運動 8 本時の振り返り 9 整列・挨拶 	<ul style="list-style-type: none"> ・イー② 基本的な技のポイントを知るとともに、自分の力に合った課題を選んでいる。(観察)
第6時 (本時)	自分の課題に合った練習に取り組む、倒立技ができる。	<ol style="list-style-type: none"> 1 集合・整列・挨拶 2 学習内容の確認 3 準備運動 4 慣れの運動 5 倒立技のポイントを確認する。 6 自分の課題に応じた練習をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・腕立て横跳び越し ・側方倒立回転 <ol style="list-style-type: none"> 7 ミニ発表会 8 整理運動 9 本時の振り返り 10 整列・挨拶 	<ul style="list-style-type: none"> ・ウー① 自分の能力に合った基本的な倒立技を行ってる。(観察)
第7時	自分の課題に合った回転技・倒立技の練習に取り組むことができる。	<ol style="list-style-type: none"> 1 集合・整列・挨拶 2 学習内容の確認 3 準備運動 4 慣れの運動 5 自分の課題に応じた回転技及び倒 	<ul style="list-style-type: none"> ・イー② 基本的な技の練習の仕方を知るとともに、自分の能力に合った練習方法や練習の場を選んでいる。(観察) ・ウー① 自分の能力に合った基本的

	立技に取り組む。 6 ミニ発表会 ・回転技 ・倒立技 7 整理運動 8 本時の振り返り 9 整列・挨拶	な回転技を行っている。(観察・ビデオ記録) ・ウー① 自分に合った基本的な倒立技ができる。 (観察・ビデオ記録)
--	--	--

7 班研究テーマ・目指す児童像に迫るための具体的な手だて

(1) 自分に合った技を身に付けるために

ア 指導計画と評価方法の工夫

全ての児童がマット運動の楽しさや喜びに触れることができるよう、「技に関連した易しい運動遊び、基本的な技、安定した技・大きな技、発展技」といった系統的な学習を行えるようにした。また、全員が本単元で取り扱う技（前転、後転、側方倒立回転）の動きを体験できるよう、ふさわしい場や条件を用意し、技の練習の仕方やポイントを知ることを大切にした。

※ 学習指導要領解説では、中学年では安定した技が明記されていない。しかし、発展技に取り組む前に安定した技に取り組み、基本的な技を確実に定着させることは必要な過程であると考えた。本単元では、安定した技という名称では児童には提示することは行わないが技を繰り返してできることの大切さを伝えていく。

イ 取り扱う技の選択

事前に撮影したマット運動のビデオ映像から、児童の技能面における実態を把握し、本単元で取り扱う技を設定した。運動会の「日頃の体育授業の成果を発揮する機会とし、運動意欲を高める。」というねらいを達成するために、側方倒立回転の動きを演技の中に取り入れることにした。こうすることで、児童の「できるようになりたい。」「もっと上手になりたい。」という気持ちが喚起され、運動の継続や日常化を促す一助になると考えた。

ウ 場の工夫

本単元で主に扱う技について、予想されるつまずきを明らかにし、練習の場を設定した（表1参照）。

表1 予想されるつまずき及び練習の場

技の名前	動き	予想される主なつまずき及び解消するための練習の場
前転	・頭の後ろをマットに付ける。 ・最後にかかとをすばやく引き寄せしゃがみ立ちになる。	○勢いがなく、起き上がれない。 →坂道マット、背支持倒立 ○体を丸めることができない。 →ゆりかごから立ち上がる ○頭頂部をついてしまう。 →重ねマット、坂道マット
後転	・あごを引いて背中を丸める。	○勢いがなく、脚が頭を越すことができない。

	<ul style="list-style-type: none"> ・しゃがみ立ちの姿勢から、尻をついて後方に回転する。 ・最後にマットを押して、しゃがみ立ちになる。 	<ul style="list-style-type: none"> →坂道マット →ゆりかご～背支持倒立 →溝を作ったマット ○背中から、バタッと倒れてしまう。 →ゆりかご～背支持倒立 →重ねマット
側方倒立回転	<ul style="list-style-type: none"> ・腰の位置を高く保ち、踏み出した足と同じ側の手を着く。 ・逆の足を勢いよく振り上げる。 ・後から着いた手でマットを押し、片足ずつ着地する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○体が真っすぐ伸びない。 →ゴムを使う →手型や足型を使う ○立てない。 →マットの角を使う →目線を確認する（赤玉を置く）

エ 学習資料の工夫

児童が、技のポイント（技術ポイント）を正しく理解することで、自分の課題に気付き、自分に合った練習に取り組めるようになることを考える。そこで、学習カードは、技についての情報を必要最低限な量を盛り込んで作成した。また、技のポイントを知る活動では、指導者の模範の動きと学習カードを活用して理解できるようにした。なお、毎時間の振り返りの中で、児童が見付けた「こつ」については、学習カードの拡大掲示物に書き込み、学級全体で共有できるようにした。

(2) 友達と関わり合いながら運動に取り組むために

ア 慣れの運動の工夫

技の習得に必要な基礎感覚を培うとともに、できる技で楽しんだり、友達と調子を合わせる楽しさを味わえたりするよう、毎時間の学習の中で、「慣れの運動」を取り入れた。

イ グループ編成の工夫

友達と見合い、励まし合いながら運動に取り組む姿勢を身に付けるために、単元を通して3人組グループをつくった。能力混合の固定グループとし、技能面、思考・判断面、人間関係等を考慮しながら指導者が編成した。

ウ ミニ発表タイムの設定

練習してきたことを、多くの友達と見合い、励まし合えるよう「ミニ発表タイム」を設けた。

8 本時（全7時間中の第6時間目）

(1) 本時の目標

【技能】自分の能力に合った倒立技（腕立て横跳び越し・側方倒立回転）ができるようにする。

【態度】友達と協力して、器械・器具の準備や片付けができるようにする。

【思考判断】基本的な技のポイントを理解し、自分の力に合った練習方法や練習の場を選ぶことができ

るようにする。

(2) 本時の展開 (※本時では、技能を主として評価する。)

学習活動	・留意点 ☆評価 ○支援									
<p>1 集合・整列・挨拶</p> <p>2 学習内容を確認</p> <p>3 準備運動</p> <p>4 場の準備</p> <p>5 慣れの運動</p> <ul style="list-style-type: none"> かえるの足打ち (腰を高く上げて) 小さいゆりかご 大きいゆりかご 脚の入れ替え 背支持倒立 友達と調子を合わせて など <p>6 倒立技のポイントの確認</p> <p>7 自分の課題に応じた練習</p> <ul style="list-style-type: none"> グループで見合う。 ミニ発表会 <p>場の設定例</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">入り口</p> <table style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="background-color: #cccccc; padding: 5px;">ゴムの場</td> <td style="background-color: #cccccc; padding: 5px;">ゴムの場</td> <td style="background-color: #cccccc; padding: 5px;">ゴムの場</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc; padding: 5px;">平マット</td> <td style="background-color: #cccccc; padding: 5px;">手型・足型</td> <td style="background-color: #cccccc; padding: 5px;">腕立て横跳び越し</td> </tr> <tr> <td style="background-color: #cccccc; padding: 5px;">平マット</td> <td style="background-color: #cccccc; padding: 5px;">手型・足型</td> <td style="background-color: #cccccc; padding: 5px;">赤玉 マットの角</td> </tr> </table> </div> <p>8 整理運動</p> <p>9 片付け</p> <p>10 学習の振り返り</p> <p>11 整列・挨拶</p>	ゴムの場	ゴムの場	ゴムの場	平マット	手型・足型	腕立て横跳び越し	平マット	手型・足型	赤玉 マットの角	<ul style="list-style-type: none"> 学習の見通しをもてるよう、学習の流れを掲示する。 運動で使う部位を意識できるようにする。 安全に協力して用具を運ぶよう言葉を掛ける。 必要に応じて、目線、あごの引きなど動きのポイントを確認する。 今できる技で、友達と調子を合わせる楽しさも味わえるようにする。 指導者が説明するのではなく、児童が自分の言葉で表現するようにする。 自分の能力に合った練習の場を選べていない場合には、適切な練習方法を一緒に確認する。 友達とめあてを確認し、見合うようにする。 ☆自分の能力に合った倒立技 (腕立て横跳び越し・側方倒立回転) を行っている。【技能：観察】 ○腰の位置を高く保つ動きが不十分な場合には、腕立て横跳び越しに取り組み、段階的に側方倒立回転の練習を行うようにする。 ○手の付き方や足の下ろし方がスムーズでない場合には、マットの角を使って練習する。 ○体がまっすぐ伸びない場合には、手の付く位置と目線を確認する。また、「もも」に力を入れる意識をもつことが大切であることを伝える。 ○きれいにできている児童には、足を大きく開き、より美しくダイナミックな側方倒立回転を目指すよう言葉を掛ける。 ・技能の伸びが見られた児童の動きを紹介し、何が有効だったのか共有する。 ・使った部位をほぐすようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0; width: fit-content;"> <p>技ができたか 友達と見合うことはできたか つかんだこつがあったか</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・学習中の友達のよさを紹介し、称賛する。 ・自分の伸びを振り返るようにする。
ゴムの場	ゴムの場	ゴムの場								
平マット	手型・足型	腕立て横跳び越し								
平マット	手型・足型	赤玉 マットの角								